

2024 年度 日本分析化学会九州支部 幹事会 議事録

開催日時： 11 月 15 日(金) 13:00~15:00

会場： 久留米リサーチ・パーク 2 階 研修室 E (〒839-0864 福岡県久留米市百年公園 1 番 1 号)

出席者：加地範匡（支部長）、井倉則之（次期支部長）、馬渡和真（副支部長）、宮崎真佐也（副支部長）、井上高教（監査）、田中充（庶務幹事）、戸田敬、高椋利幸、佐藤しのぶ、松森信明、井原敏博、梅木辰也、高橋幸奈、末田慎二、椿俊太郎、鳥羽陽、今坂藤太郎、石井千晴、白土英樹、吉田秀幸、大平慎一、大庭義史、巴山忠、児玉谷仁、松井利郎、黒田直敬、戸田敬、浜瀬健司、佐藤好美、北村裕介（順不同，略敬称）

1. 2024 年度支部事業経過報告および予定

1. 1.1 九州分析化学若手の会 第 37 回若手研究講演会および第 42 回夏季セミナー（世話人 児玉谷）P.4

児玉谷先生より資料に従い報告がなされた。会計についても報告がなされた。特段大きな問題もなく、無事に盛会にて終了した旨の報告がなされた。

2. 1.2 2024 年度九州分析化学奨励賞(選考委員長 大庭) P.8

大庭先生より資料に従い報告がなされた。受賞者の年齢学年についての質問がなされ、

第 61 回化学関連支部合同九州大会

加地先生より、資料に従い報告がなされた。次年度（2025 年度）は日本分析化学会九州支部が主担当となることが報告された。

機器分析ワークショップ

加地先生より、今年度は開催しないことが確認された。

第 62 回分析化学講習会(実行委員長 井上)

井上先生より、資料に従い報告がなされた。GC や LC などは参加希望者が多かったこと、印刷費が値上がりしてきていること、今年度の繰越額が少し少なくなっていること（学生参加者が多かったため）などが、報告された。資料 19 ページの担当者リストの修正について確認された。参加者の数についての修正（正しくは参加者は 55 名）が確認された。

2024 年度支部会計中間報告(会計幹事 井手・加地)

加地先生より、資料に基づき報告がなされた。

本部・支部連絡会議(支部長 加地)

加地先生より、資料に従って報告がなされた。要点は下記の通り。

- 3) (資料4) 支部への配分経費が確定された。九州支部は 957,700 円を予定
- 4) (資料5) 学会資金の運用について、理事会で了承された。リスクの少ない社債などでの運用を基本とする。
- 7) 新たに就任された事務局長の方が、現状に合わせた内規の改正などを積極的に行っている。

理事会報告(理事 井原)

加地先生より、資料に従って報告がなされた。要点は下記の通り。

- 3) (資料4) 支部への配分経費が確定された。九州支部は 957,700 円を予定
- 4) (資料5) 学会資金の運用について、理事会で了承された。リスクの少ない社債などでの運用を基本とする。
- 7) 新たに就任された事務局長の方が、現状に合わせた内規の改正などを積極的に行っている。

各誌編集委員会

1. 5.1 Analytical Sciences(編集委員 梅木) P.44

梅木先生から、資料に従って報告がなされた。現在、40 周年の記念号の発行を目指しており、九州支部の先生方へのお礼がなされた。

2. 5.2 分析化学(編集委員 森)

森先生より資料にしたがって報告がなされた。

3. 5.3 ぶんせき(編集委員 高橋)

高橋先生より支部だよりの執筆について、自薦他薦の依頼がなされた。支部だよりは、例年通り支部長が担当することが確認され、高橋先生から加地先生への依頼がなされる旨が確認された。ロータリーについても、支部の夏季セミナーの活動報告を記載していたことが確認され、今年度から、復活させることが確認された。

九州支部規約の改定について

支部の役員の「監査」を「幹事」へ変更することが確認され、承認された。

議題

1. 2025 年度支部事業計画案(支部長 加地・庶務幹事 田中) P.52

加地先生より、資料に従って支部事業計画案について、説明がなされた。

化学関連支部合同大会について、次年度の予算では MICE 助成金が貰えない年度であること、国際学会としての開催を計画することで助成金がもらえる可能性があること、が提案され、詳細は井倉先生より北九州市 MICE 担当者へ確認予定。

支部事業の中に、支部学会賞、奨励賞の授与についても記載することが指摘された。

2025 年度支部予算案(会計幹事 加地) P.53

加地先生より支部予算案に従って報告がなされた。緑陰セミナー（北海道支部開催）との交流事業として、5 万円を形状する旨が提案された。

北海道支部との交流について、北海道支部からは隔年で 1 名、九州支部からは隔年で 2 名を派遣したい。そのための交流旅費については、支部が負担する（北海道→九州×1 および九州→北海道×2）ことが、最終的に承認された。

学生の派遣費を補助するかどうかについては、継続審議とする。学生派遣については、奨励賞受賞者など、支部として支援する明確な理由を考慮する必要がある。

2026 年度の討論会の旅費について、どのタイミングで審議をするべきかについても、提案がなされた。いずれにせよ、まずは討論会の実行委員名簿を本部の理事会で承認してもらう必要があり、予算については、その後の申請になる。

2025 年度 若手の会(世話人 石井) P.54 支部役員の変更(庶務幹事 田中) P.56

加地先生より、昨今の世話人を引き受ける教員の数の減少が深刻な問題であり、極力負担を少なくすること、さらに、引き受けた先生の業績になるように議論したことが報告された。詳細については、下記の通り、資料に基づき石井先生より報告がなされた。

「セミナー開催を若手教員が`引き受け易く、今後も継続的に実施可能な形式に変更する」ことを目的に以下の変更を行うことが提案された

- 1) 「世話人」という名称から「実行委員長」に変更し、実行委員会を組織する。
→開催負担を分担。業績獲得のメリットをつくり、今後の実行委員長候補者を確保。
- 2) 会期は従来通り 2 日間とするが`、宿泊ホテルは参加者自身が`確保する。
→ホテルで`のトラブル対応等の負担を軽減。
- 3) 1 日目の夕食時には従来通り、参加研究室こ`とに研究紹介(イブ`ニング`セミナー)を行い、イブ`ニング`セミナーまで`を参加費に含める。
→参加者同士の交流を促す。

4) 参加費収入、支部助成金および`全国若手交流会助成金等、無理なく集められる予算のみで`実施する。→実行委員長の負担軽減。

参加者人数見込みについて、100 名で見込んでいることが確認された。また、企業の若手研究者との交流事業となるように、企業にも積極的にアナウンスするように提案がなされた。

支部役員の変更

資料の通り、産業技術総合研究所 松田様から上原様へ交代されることが承認された。

2025 年度支部・本部関係役員(庶務幹事 田中) P.57

加地先生より、資料の通り次年度の支部役員について、紹介がなされ、了承された。

第 86 回日本分析化学会討論会(支部長 加地) P.58

加地先生より、資料のとおり日本分析化学討論会について、説明がなされた。実行委員長は高椋先生が就任された。会場は久留米を中心に行う。

実行委員長の下に、それぞれの枠組みでの代表者として、副実行委員長を配置した。

2026 年度支部長の吉田先生より、支部の会計と討論会の会計を混同しないようにしたいとの提案がなされた。

次回の九州支部担当の年会は 2030 年度であることが報告された。

支部長・常任幹事の任期に関して(支部長 加地)

理事の任期は 2 年なので、支部の役員の任期を 1 年から 2 年へ変更する案が提案された。また、2 年にするタイミングについては、井原先生の理事の任期終了と合わせて、次期の理事選出（2025 年度～2026 年度、井上先生）のタイミングで、支部の任期を 2 年に変更したい。北海道支部と中部支部はすでに支部役員の任期は 2 年となっている。

1 期 1 年の任期にして、2 期までは再任を妨げない（不足の辞退に備えて）というような規約にする、もしくは、途中での辞退を認める（事務の業務委託の契約期間との兼ね合いを考慮）というような規約を入れておく方がよいとの提案がなされた。

その他

1. 8.1 2025 年度執行部案(次期支部長 井倉) P.59

加地先生より、次年度執行部について説明がなされ、承認された。

会計幹事は、事務補佐員での就任可能であることが確認された。

支部奨励賞について

大庭先生より対面での審査についての希望が提案された。